

## 正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2013年4月15日）

## ■第2刷（2010年3月25日発行）の修正箇所

※第1刷からの修正箇所は[http://www.yodosha.co.jp/correction/9784897069241\\_corrections.pdf](http://www.yodosha.co.jp/correction/9784897069241_corrections.pdf)をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
序章					
16	本文下から5～6行目	DEPCを1%の最終濃度で	DEPCを0.1%の最終濃度で		10/07/02
1章					
43	参考文献の2)	2) 南原英司, 立松 圭, 内藤 哲: 「発芽関連遺伝子の解析」, 『 <b>種子発芽の生態学・生理学・分子生物学（仮題）</b> 』（種生物学会/編）, 文一総合出版, <b>印刷中</b>	2) 南原英司, 立松 圭, 内藤 哲: 「発芽関連遺伝子の解析」, 『 <b>発芽生物学 種子発芽の生理・生態・分子機構</b> 』（種生物学会/編）, p375-385, 文一総合出版, <b>2009</b>		13/04/15
2章					
122	プロトコール⑫ (下から1行目)	13,000× <b>g</b> , 10分間, 4°Cで遠心して, 上清を回収する.	13,000× <b>rpm</b> , 10分間, 4°Cで遠心して, 上清を回収する.		11/07/29
123	プロトコール⑬ (上から1行目)	13,000× <b>g</b> , 10分間, 4°Cで遠心して, 上清を回収する.	13,000× <b>rpm</b> , 10分間, 4°Cで遠心して, 上清を回収する.		11/07/29
123	プロトコール② (【2】の中)	27,000× <b>g</b> , 4°C, 3時間, 遠心する <sup>⑩</sup> .	27,000× <b>rpm</b> , 4°C, 3時間, 遠心する <sup>⑩</sup> .		13/04/15
123	【3】RNAの回収 のプロトコール①	分取した各画分0.225 mLに <b>3M塩酸グアニジン</b> を0.5mL, 100%エタノールを0.75mL加えて-20°Cで一晩静置する.	分取した各画分0.225 mLに <b>8Mグアニジン塩酸</b> を0.5mL, 100%エタノールを0.75mL加えて-20°Cで一晩静置する.		11/03/08
3章					
125	5×転写バッファー	<b>400 mM</b> HEPES (pH7.5) <b>120 mM</b> MgCl <sub>2</sub> (T7またはT3) <b>160 mM</b> MgCl <sub>2</sub> (SP6) <b>10 mM</b> スペルミジン <b>200 mM</b> DTT	<b>1 M</b> HEPES (pH7.5) <b>1 M</b> MgCl <sub>2</sub> (T7またはT3) <b>1 M</b> MgCl <sub>2</sub> (SP6) <b>1 M</b> スペルミジン <b>1 M</b> DTT		13/04/15
125	5×転写バッファーの最終濃度	( <b>32 mM</b> ) ( <b>2.88 mM</b> ) ( <b>5.12 mM</b> ) ( <b>0.02 mM</b> ) ( <b>8 mM</b> )	( <b>80 mM</b> ) ( <b>24 mM</b> ) ( <b>32 mM</b> ) ( <b>2 mM</b> ) ( <b>40 mM</b> )		13/04/15